

戦後の本県の音楽文化の発展を支えたのが県立図書館であった。2011年に起こった東日本大震災のとき、被災者に今一番ほしいものを尋ねたところ、水・食料そして音楽という答えが返ってきたという。

寄稿

県立図書館ホール 今 雅人

本県の音楽文化を支える

頻繁に開かれていたから 青森市公会堂は進駐軍に接収されてしまったため、戦後文芸活動の提供基地としての重要な役割を県立図書館ホールが果たした。講演会・式典・ダンス・演劇・映画鑑賞など、幅広い音楽活動の場として、県立図書館ホールは音楽の重要な発信基地となっていた。その県立図書館と音楽の密接なかわりがおこなわれ、特に音楽会時代・全ジャンルの音楽資

は、1953年に完成した県立図書館の新しい建物にも継承される。それが県立図書館に置かれたホール(講堂)だった。空襲による焼失のため、青森市内には文化的機能を備えた集会施設がなかった。唯一の施設ともいえる

め、1994年現在の場所へと県立図書館は移転した。しかし、県立図書館の果たしてきた本県の音楽文化発展の殿堂の役割は、現在も継続している。今春4月より、本県にかかわる全時代・全ジャンルの音楽資



1953年頃の県立図書館ホール(県立図書館提供)

(県音楽資料保存協会事務局)
※郷土の音楽コンサートは古川昭男、中村卓三、長谷川芳美、小倉尚継各氏の曲を県内の演奏者や合唱団が披露する。県音楽資料保存協会主催、入場無料。問い合わせは大嶋さん(090・5357・4303)へ。